巻頭言

統計についての雑感

行政管理庁統計主幹
北　山　恭　治

私は，役所で統計の仕事に直接従事するのは，今回がはじめてであるが，統計に興味を持つたのは，昭和30年頃香川県で，知事公室次長という仕事をした時が始めてであつた。当時，県の総合開発計画の策定に従事したのであるが，県の総合開発計画を策定することとなると，まず必要なのは，県の現況の分析であり，県の現況を分析するために必要なのは，既往の諸調査の結果資料であり，特に統計資料であつた。県の人口だけについても，出生率，死亡率等を経年的に，また地域的に分析し，その自然増加や社会的増減を調べることによつて，それが県の自然的，社会的，経済的諸事情と密接な関係のあることを知つたのであつた。例えば，離島には，人口の自然増加率や乳幼児死亡率等に著しい特色が見られたが，それは離島の人口構成や栄養摂取量等と密接な関係があること等である。

民生部長や経済部長の職にあつた時も，統計はもちろん，仕事のうえで必要ではあつたが，統計の重要性を真に認識したのは，県の総合開発計画策定の仕事した時であつたことを思うと，現在，府県の統計課のほとんどが，企画部に置かれていることは，いいことだと思う。

岐阜県では，毎年，「岐阜県経済と県民生活」という，300頁あまりの資料を発表されているが，県の経済活動や社会福祉等，県民生活のあらゆる分野について，統計調査の結果分析による現況が詳細明確に把握されている。

各省は，毎年それぞれ所管行政について，白書を作成して発表しているが，それぞれの省の所管行政に関するものであつて，国民生活のあらゆる分野について，統計調査結果の解析をすることは，国の場合には困難であるが，県の場合は，県民生活のあらゆる分野について総合的な，現況の分析ができる点に，大きな特色があると考えられる。

統計が，国政上，きわめて重要な基礎資料であることはいうまでもないが，統計調査を実施する場合，それが国政のためにも，また県行政のためにも，最も能率的に役立つものとするために，調査計画や集計方法などについて，つねに検討改善をはかつてゆくことは，重要であると考えられる。また調査員の制度など，末端の実際調査機関を，いかに合理的に整備してをくかということも，今後ひきつづいて十分検討されなければならない問題であろう。

統計行政関係者の連絡協議を十分にして，統計の進歩に努めてゆきたいものである。